

科目名	市民活動論		担当教員 (研究室番号)	森下直紀 (508)		教員への連絡方法 (メールアドレス)						
履修年次	2年次前期	科目区分	教養・基礎科目		選択区分	選択	単位数(時間)	2(30)	授業形態	講義	科目等履修生	可
											オープンクラス	可
科目目的	ボランティア活動・NPO活動・社会運動を含む市民活動は民主的な社会の基盤形成に不可欠な実践である。現在では、それらの市民活動は、各市民が所属するコミュニティ特性を反映するなどして、さらに多岐にわたりつつある。そこで本状では、多様化する市民活動の目的・組織原理・コミュニケーションに焦点を当てつつ、その現代的な特性と課題について考察する。											
ディプロマ・ポリシー(DP)	主要なDP	D 様々な職種との連携において、看護専門職者としての役割を理解し、多職種による協働活動に参加できる。(技能・表現)										
	関連するDP	B 多様な考え方や様々な背景を持つ人々の特徴を理解するための、幅広い教養を身に着けている。(知識・理解)										
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>市民活動の社会における役割について、説明することができる。</li> <li>日常生活におけるふとした気づきに視覚的となり、市民活動へと展開させることを具体的に想起できる。</li> </ul>											
成績評価方法(基準)	平常点(30%)、期末レポート(70%)による。											
再試験の有無と基準等	再試験あり。追加レポートの提出による。											
教科書	大阪ボランティア協会(編)『テキスト市民活動論：ボランティア・NPOの実践から学ぶ』第2版、大阪ボランティア協会、2011-2017年											
参考書等	坂本治也編『市民社会論：理論と実証の最前線』法律文化社、2017年											
学生の主体性を伸ばすための教育方法と学生への期待	授業は、ゲスト講師を含めたワークショップを実施し、市民活動を身近に関してもらう他、様々な関わり方についての理解を促し、履修者の主体的な市民活動がスムーズに開始できるよう展開したい。履修者は、自らの日常における気づきに自覚的となり、その気づきに基づいた市民活動が開始されることを期待する。											
備考												
回	学習項目					学習内容					主担当教員	授業方法
1回	イントロダクション					授業の目的や進め方について説明する。また、アイスブレイクを目的としたワークショップを行う。					森下	講義 演習
2回	市民活動とは何か					市民活動の歴史を概観し、特に「ボランティア活動」と「奉仕活動」の違いを解説する。					森下	講義
3回	市民活動は何を担うのか					行政サービスと企業活動と市民活動の相違点について解説する。併せて「労働」や「公平性」の概念についても解説する。					森下	講義
4回	行政職員とのワークショップ					行政職員をゲストスピーカーに招き、地域の課題や市民活動との協働について解説してもらい、履修者と意見交換を実施する。					森下	講義
5回	市民活動の現代史					阪神淡路大震災を契機として市民活動の興隆と、NPO法制について解説する。					森下	講義
6回	市民活動の類型					市民活動への関わり方や市民活動の種類について扱う。特に市民活動に依拠するという市民活動の考え方について解説する。					森下	講義
7回	ディスカッション：日常における気づき					これまでの授業の振り返り。および履修者の日常生活での気づき(市民活動のタネ)を共有し、議論する。					森下	講義
8回	市民活動事例①					災害とボランティア					森下	講義
9回	市民活動事例②					公害被害者へのエンパワメント					森下	講義
10回	市民活動事例③					原発反対運動					森下	講義
11回	市民活動事例④					地域の歴史と文化とのかかわりの中で、風力発電反対運動					森下	講義
12回	市民活動事例⑤					アドヴォカシー運動(町田市)					森下	講義
13回	市民活動事例⑥					街づくり・地域活性化					森下	講義
14回	場づくりワークショップ					市民活動の組織作りの課題をワークショップ形式で学習します。					森下	講義 演習
15回	まとめ					授業を通して得た問題意識や、これからの課題について、意見を共有する。					森下	講義

## 学 習 課 題

- ・各回の授業に先立ち、テキストの指定箇所を読み、疑問点や個人的に感じた問題意識を把握しておくこと。
- ・各回の授業後に振り返りのコメントペーパーを作成し提出すること。

## 実務経験を活かした教育の取組

--